

令和4年度
学校評価シート

幼保連携型認定こども園 正和幼稚園

※令和5年3月2日16時～17時 正和幼稚園にて対面実施（保護者・地域住民・評議員・大学関係者）

1. 園の教育目標

1. それぞれのいのちを、こころ、からだ、自然から感じ取り大切にします。
2. 居心地のよい、安心できるこの場所で、「私は、私である」ことを実感します。
3. 社会の一員として、つながりあい、影響をあたえあいます。
4. 相手の思いを聴き入り、自分の想いも伝えます。
5. 試して、工夫して、つくりだす経験をします。自分なりに納得するまで探究します。

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

2022年度 正和幼稚園は、「こどももおとなも 自分を出し合える場を生み出す存在」でありたいと思っています。そのために、「丁寧に聴き合い、それぞれの探究を積み重ね、発信すること」を大切にしていきます。

* インクルーシブ保育の充実

2022年度は、インクルーシブ理解促進も意識し海外出身者（アフガニスタン人）と障がい者雇用の促進をする。園児・ご家庭・職員意識も高め、多様性を認め合える園の質向上に努める。

* 地域がつながる居場所を増やす

ゆったりラウンジ@ラウンジ原町田（地域の居場所づくり） 週3回（火・水・金 10-13時）

2022年度、子育てひろば事業Ⅱ型（都単型）を子育てひろば事業Ⅲ型（基礎型）に認められるように地域活動の実績をあげていく。

- ・ つながり一時保育との連携 子どもを預け、ラウンジで仕事も可能
- ・ マイ保育園登録者数 目標 100名
- ・ 保育相談表 できる限り漏れがないように記載することに職員も慣れ、徹底する

* 探究型保育の実践

地域環境も利用しながら、子どもたちの興味関心からひろがる活動のさらなる充実をはかる。地域の専門家（ゲストティチャー）も加わるなど地域の方々とも連携をとりながら、探究型保育を進めていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 インクルーシブ保育の充実	5	ハラル食の実践、外国人職員の雇用、日本語を母国語としない家庭への対応等取り組まれている。また、障がいのある子どもたちを同じ保育環境の中で生活、保育を行っている。
2 地域がつながる居場所づくり	5	ゆったりラウンジを開始しており、4月の利用よりも月を追うごとに増加している。リピーターや口コミも増えていて、地域の子育て支援を行っている。近所の本棚も始めている点や、マイ保育園の登録も目標100名に対して95名となっている。
3. 探究型の保育	4	探究型の保育はおおむね出来ていると考えるが、更に深い探究が出来る事もあると考える。

※結果について

5	十分達成されている
4	達成されている
3	取り組まれているが、成果が十分ではない
2	取組が不十分である
1	取り組んでいない

4. 自己評価で設定した目標・計画・評価項目の設定は適切であったか

時代の要請に対応している目標が設定されていると思われる。多様性や共生社会を中心に、個々の個性の育成を行われるような計画、評価項目となっている。適切な自己評価が出来ていると思われる。

5. 自己評価の結果の内容は適切であったか

子どもの日常や環境、職員の資質向上などについて、評価、記述されており適切であったと考える。

6. 自己評価に対して今年度取り組むべき課題は適切に行われているか

インクルーシブ保育の充実、地域がつながる居場所を増やす。探究型保育の実践については、それぞれの課題に対応し適切に行われている。

7. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

探究型保育はある程度達成されてきており、新たな課題に対して適切に設定されている。子ども家庭庁が出来る中での新しい取り組みの中で、子どもだけではなく家庭を含めた時代の要請に対応した目標であると考えます。

※ 2023年度の重点項目

2023年度正和幼稚園は、「子どもの学びをまんやかに それぞれのやってみたいが集まる場」でありたいと思っています。

* インクルーシブ+ダイバーシティ保育促進

① 多様な文化を受容する基盤をつくる

- ・ 多様な文化理解促進
- ・ 多文化共生ダイバーシティ保育の実践

② つながり・支え合う体制をつくる

- ・ 児童発達センター創設と利用予定者獲得

③2024年度に向けて医療的ケア児の受け入れ体制をつくる

- ・ダイバーシティ価値の実現
- ・インクルーシブ理解促進

*地域の居場所づくり・伴走型子育て支援（新規国事業）への貢献

①定期的なゆったりラウンジの開放 ラウンジ原町田にて週3回（火・水・金 10-13時）

- ・地域の方に自分らしい時間が持てる場所を開放し利用者を増やす
- ・マイ保育園登録者数目標100名

②アウトリーチ型子育て支援事業の活動拠点を増やす

- ・積極的に地域に出向き、子育てをキーワードとした地域とのかかわりを強化

③理由を問わない一時保育利用の積極的な受け入れ

- ・地域の子育てパートナーとして気軽に園の一時保育利用をしやすい仕組みをつくる

*保育活動エリアの充実

①屋外 木工活動エリア内容充実を通して、木工活動自体が日常のいとなみとなり、園の特色として対外的にも認識される

②屋内 絵本エリアの充実を図ることにより、絵本に関する地域も含めた子ども、大人意識向上を図る